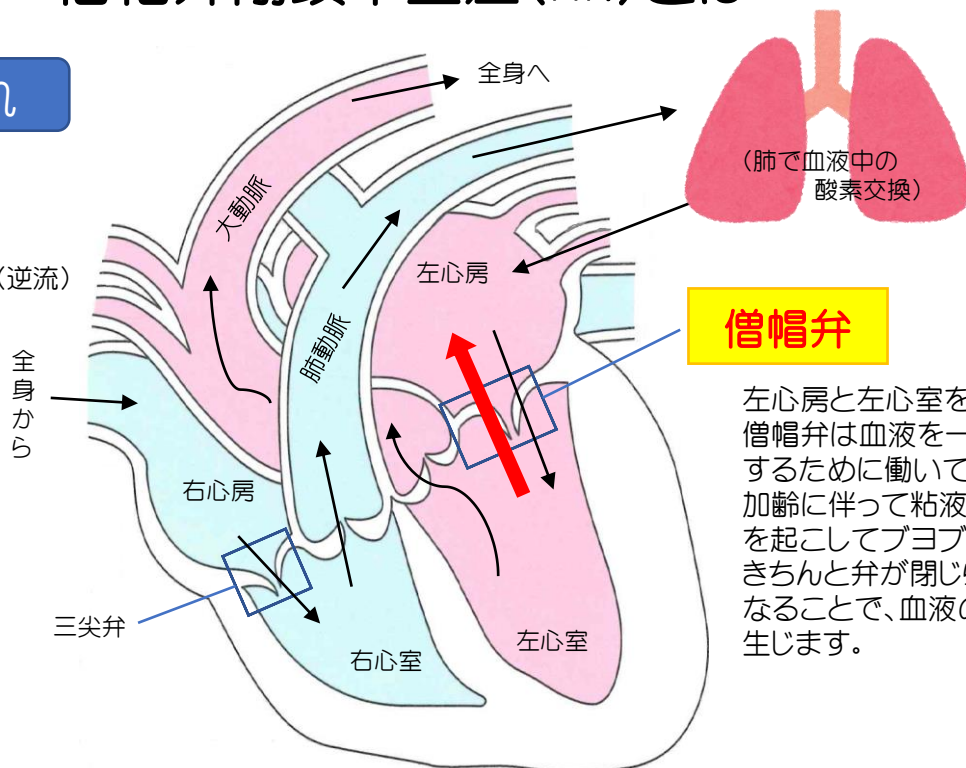


# 僧帽弁閉鎖不全症(MR)とは

## 血液の流れ

→ 正常血流

→ 異常な血流(逆流)



## 僧帽弁

左心房と左心室を隔てる僧帽弁は血液を一方通行にするために働いています。加齢に伴って粘液腫様変性を起こしてブヨブヨになり、きちんと弁が閉じられなくなることで、血液の逆流を生じます。

## 《症状》

中高齢の小型犬に非常に多い心疾患です。初めは無症状で、ワクチンなどの定期健診の際、聴診時に心雑音が聴取されることで発見されます。

本来大動脈へ向かうべき血液の一部が左心房に戻っていくため、左心房の容量がいっぱいになり、次第に拡張していきます。

左心房の上部は気管があり、心拍動のたびに気管に触れることで咳が出るようになります。

また、左心房の手前である肺にも負荷がかかります。

肺の中で渋滞を起こした血液は水分を肺胞に逃がし、スポンジ様の肺が水を含んだ状態になります。この状態を【**肺水腫**】と言い、湿った咳、呼吸困難、チアノーゼを起こし大変危険な状態になります。

## 《治療》

強心剤や血管拡張剤を使用することで心臓の負荷を和らげ、進行をゆっくりにします。

症状に合わせてお薬の量や種類を調整します。

食事管理も大切です。適度に塩分調整された療法食やシニア食が選択されます。

元気そうに見えても心臓は外から見えない臓器です。

状態が安定していても定期的なレントゲンやエコー検査をおススメしております。



## 《肺水腫の早期発見》

前述のとおり肺水腫は非常に危険です。発見が遅れると喀血を起こして亡くなってしまうこともあります。日ごろから睡眠時の呼吸回数を数えて記録しておくことで早期発見につながります。

**大人しく眠っている時に、「吸って吐いて」を1回とカウントしてみましょう。(15秒の測定でもOKです)**

正常では1分間に30回未満ですが、通常時より10回以上多かったり、40回/分以上の呼吸である場合は肺水腫を起こしている可能性がありますのですぐにご連絡ください。